

## 平成 26 年度 【 学園研究費助成金 &lt; B &gt; 】 研究成果報告書

学部名 人間関係学部

フリガナ カブモト チヅル  
氏名 株 本 千 鶴

研究期間 平成 26 年度

研究課題名 現代日本社会におけるホスピス・緩和ケアの医療化に関する社会学的研究

## 研究組織

	氏 名	学 部	職 位
研究代表者	株 本 千 鶴	人間関係学部	教授
研究分担者			
研究分担者			

## 1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

現代日本社会においてホスピス・緩和ケアは、医学的知識や医療技術、医療保障制度や医療政策の影響を受けながら実践されている。その実態は、「死にゆくこと (dying) の脱医療化」をめざすホスピスの思想や実践方法が日本に導入され、臨床での実践が始められた草創期の状況と比較すると、格段に「医療化」の様相を帯びるようになってきているといわれる。しかし、そのような実態についての具体的な実証研究は十分には行われていない。

本研究では、日本社会におけるホスピス・緩和ケアの「医療化」とそれに対抗するホスピス運動の歴史的経緯を確認するとともに、ホスピス・緩和ケアを実践する医療者の「医療化」に対する認識と見解、対処方法を明らかにする。

## 2. 研究方法等 (300 字程度で記述)

- ① 日本社会におけるホスピス・緩和ケアの「医療化」の経緯の確認：ホスピス・緩和ケアについての専門的知識やがんの治療技術、がん対策などに関する文献を収集し、内容を整理する。
- ② 日本社会におけるホスピス運動の歴史的経緯の確認：ホスピス・緩和ケアにかかわる組織や実践者による手記などの文献を収集し、内容を整理する。
- ③ 日本社会におけるホスピス・緩和ケアを実践する医療者の「医療化」に対する認識と見解、対処方法に関する調査：ホスピス・緩和ケアの実践者に対してヒアリング調査を実施する。対象者は緩和ケア病棟での実務経験者、あるいは一般病棟での緩和ケアチームの実務経験者とする。

### 3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

#### ①ホスピス・緩和ケアの「医療化」とホスピス運動の歴史的経緯の確認

日本では1980年代前半からホスピスの施設が設立されはじめ、1990年に「緩和ケア病棟入院料」が診療報酬として新設されたことがホスピスの量的拡大に貢献している。2006年のがん対策基本法制定後にはがん対策推進基本計画に則った緩和ケアの普及政策が展開され、その量的質的发展に拍車がかかった。日本のホスピスは、その名称を「緩和ケア」とされ、主に病院の入院サービスとなり、また、がん対策の一部と位置づけられるという制度化によって普及されてきたのである。

病院という場合は治療のための医療行為が実施される場であり、緩和ケアはがんなどの症状が出現する初期段階から実施されるケアである。そして、そこに適用される「緩和ケア病棟入院料」は、ホスピス・緩和ケアの提供する全人的ケア（身体的ケア、精神的ケア、社会的ケア、スピリチュアルケア）の医療行為のみを診療報酬の対象とする。これらの事実が要因となり、徐々にホスピス・緩和ケアは人生の最期を看取ることに焦点をおきづらくなり、医療の主流に取り込まれる「医療化」が進展してきている。また、このような傾向についてホスピス運動推進主体は危惧を感じている。

#### ②ホスピス・緩和ケアを実践する医療者の「医療化」に対するヒアリングから得られた知見

緩和ケア病棟や緩和ケアチームでの実務経験のある7名の医師にヒアリング調査を実施した。いずれの対象者からも日本のホスピス・緩和ケアが制度や政策の影響を受け、ホスピス運動が始まった草創期に比べてホスピス・緩和ケアが変容し、「医療化」が進んでいるとの見解が示された。その具体的な要因については多様な認識がもたれている。診療報酬制度、医療制度、宗教的背景、死の文化、看病や介護の体制、などである。対処方法については制度の改革や生命や死についての教育の普及などが挙げられた。

### 4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

① ホスピス	② 緩和ケア	③ 医療化	④
⑤	⑥	⑦	⑧

**5. 研究成果及び今後の展望** (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

株本千鶴「일본의 호스피스 완화케어 : 제도 정책의 현황과 과제」  
(日本のホスピス・緩和ケア：制度政策の現況と課題、韓国語)  
韓国保健行政学会、(於：麗水MVLホテル、2014年11月7日)

現在、ヒアリング調査の詳細を分析中であるため、その結果を来年度、学会誌や紀要に投稿する予定である。